

わんにゃん通信 1月号

2026年1月 担当：袈裟丸



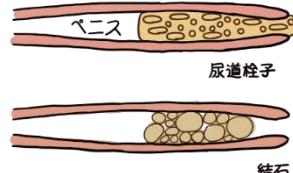
明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします！！

新しい年になったので、気持ちを切り替えて今年も頑張っていこうと思います。

さて、今回のテーマは、冬の時期に多い**猫の尿道閉塞**についてです。

●尿道閉塞とは

尿は腎臓で作られて、尿管、膀胱、尿道を経て排尿されます。尿道閉塞は、その中の尿道という尿を体外に排泄する管が詰まってしまうことで引き起こされます。また、気温が下がり、猫の飲水量が少なくなる冬（寒い時期）に増えてきます。尿道閉塞は、メス猫よりも尿道が狭いオス猫に多く、なかでも早くに去勢手術を行い陰茎の発達が不十分なオス猫や肥満のオス猫はなりやすい傾向にあります。



●主な原因

- ・尿道結石：尿道に石が詰まること。
- ・尿道栓子（にょうどうせんし）：結晶、粘液、膿などが混ざって栓になること。
- ・猫特発性泌尿器症候群（FIU）：ストレスなどが関連し、炎症が原因となること。

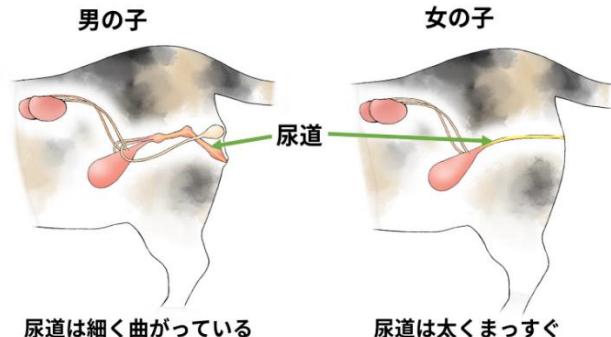
●主な症状

- ・排尿姿勢を何度もとるが、尿が出ない、または少量しか出ない。
- ・頻繁にトイレに行く。
- ・落ち着きがなくなる、外陰部を気にしてよく舐める。
- ・元気・食欲がない。
- ・体を触ると嫌がる、怒る。
- ・しんどそうに呼吸する。
- ・嘔吐
- ・ぐったりする
- ・異常な鳴き声を上げる。
- ・暗い所や家具の後ろなどに隠れる。など



●なぜオス猫に多いのか

- ・オス猫の尿道は細く、S字にカーブしているため、結石や栓が詰まりやすい構造をしているためです。



●危険な理由

- ・尿が出せないと、膀胱がパンパンに膨らみ、腎臓に負担がかかるため。
- ・体内の有害物質（尿毒素）が排出されず、体内に蓄積し、急性腎不全や尿毒症を引き起こし、短時間で命を落とす可能性があります。

●対処法と予防

- ・**水分補給**：冬場は特に飲水量が減るため、水飲み場を増やしたり、ウェットフードを与えてたりして、水分摂取を促しましょう。
- ・**ストレス軽減**：ストレスも原因となるため、環境を整えることも大切です。
- ・**すぐに病院へ**：尿が出ない場合は、様子を見ずにすぐに動物病院に受診することが重要です。日頃から排泄の状況をしっかりと把握し、おかしい様子が見られたらすぐに病院へ受診ましょう。
- ・**再発予防**：尿道閉塞になってしまったら、原因に応じた治療が必要になる場合があります。
(食事療法・内科療法・手術など)

→ 尿道閉塞の原因にもなる下部尿路疾患（特発性膀胱炎、ストルバイト結石症及びシュウ酸カルシウム結石症）の療養食をいくつか紹介します！

NU
11-1
ドライ



NU
11-2
ドライ



NM
11-1
ドライ



NM
12-1
ドライ



パウチもあるので参考にしてみてください。

おしっこトラブルがあった場合は、早めに動物病院へ受診を！

